予想問題 1 解説　ヤングケアラー

〔1〕問 1 型

◆ この問題で試されていること

令和 8 年度〔1〕問 1（児童虐待と愛着障害）と同じ型である。前半 4 問は**本文の論理を正確に追えるか**だけを見ている。ここで自分の意見を書いたら減点になる。最後の (5) だけが意見論述であり、**「理由を示した上で」「自己の体験をもとに」「あなた自身の考えを」**という 3 つの指示がすべて入っている。

◆ (1)　120 字

> 本人は生まれたときからの生活であるためケアをしている自覚がなく、また家族の病気や経済の事情を話すことは家族を裏切ることに感じられるため自ら訴えない。周囲の大人も、遅刻や成績の低下を怠けや反抗として処理してしまうから。

着眼：本文に「理由は三つある」と明示されている。**3 つを均等に拾う**。字数が 120 字あるのは、3 要素を入れよという指示である。1 つでも落とせば失点。

◆ (2)　60 字

> 自分の困難を訴えるより、家族の病気や障害、経済状況を他人に知られないようにすることを優先してしまうということ。

着眼：「自分ではなく家族の尊厳」の対比を崩さない。60 字なので **2 要素**（自分の困難を後回しにする／家族の事情を隠す）で足りる。

◆ (3)　100 字

> 称賛は本人にとって数少ない自己肯定の根拠になっているため、助けを求めることは、その評価を自ら手放すことを意味する。結果として、善意の評価が本人を役割の中に閉じ込めてしまうから。

着眼：本文の「称賛は、善意のかたちをした鍵になり」という比喩を、**比喩のまま書かずに説明し直す**のが記述問題である。

◆ (4)　150 字

> 多くの子どもは家族を大切に思っており、ケアそのものをやめたいわけではない。したがって、ケアを取り上げることは解決にならない。問題は、ケア以外の選択肢が失われている点にある。今日は部活に行く、頼むという選択がありうると本人が知っていれば、同じ生活でもその意味が変わるから。

着眼：**「支援とは何ではないか」→「何であるか」**という本文の順序をそのまま使うと、150 字がきれいに埋まる。

◆ (5)　400 字

[採点の観点]　①理由が本文に基づくか　②体験が具体的か　③体験と主張がつながっているか　④一般化まで届いているか